

あさる野民報

発行責任者/松平重幸 TEL & FAX 558-0718

住民の利益をまもり、
「住民こそ主人公」の
あさる野市政実現をめざして！

2008.9.28 No.495(毎月2回発行)

あさる野市員会は次の見解を發表しました。

10月総選挙で日本共産党の躍進を！



政治の中身を 変えるチャンスです

いよいよ解散・総選挙が迫りました。
派遣労働や後期高齢者医療制度などの決定的場面で自民党政治と真正面から対決してきた日本共産党の道理ある立場が、いま政治を動かすはじめてのチャンスです。

東京でも、笠井亮衆議院議員をはじめとする四人の比例候補、二十五人の小選挙区候補を先頭に、力を合わせて要求実現の運動にとりくみ、宣伝・対話で日本共産党の値打ちを語りひろげてきました。

東京選挙区二十五区の西多摩地域では、日本共産党の鈴木おさむ予定候補が奮闘しています。

連日、街頭・駅前宣伝を行い、各種集会にも積極的に参加し政策を訴えてきました。

さる九月十三日には池田真理子比例候補と一緒に西多摩全域を回り、集まった聴衆を前に政策を訴え共感の拍手を浴びました。あさる野では秋川駅前に集まった約四十人の聴衆から声援が飛び交いました。

国政を動かす党国会議員団

派遣労働

悲惨な実態を告発した志位委員長への質問がインターネットやマスコミで大反響「蟹工船ブーム」が広がり、派遣労働の規制緩和から規制強化へと「潮目の変化」が。

後期高齢者医療制度

高齢者差別という本質をすどく突いて、論戦を終始リード。ある新聞は「粘り強く訴えてきた共産党を代表して、小池晃政策委員長に『敢闘賞』を贈りたい」と。

道路特定財源

六つの海峡横断道路計画のムダを迫及した笠井議員の質問など、際限なく高速道路をつくり続けるという問題の核心をついて、政府を窮地に。



たばた あずみ

布おむつはすてき。手間はちょっとかかるけど、安上がりだし、ゴミにならないし。エコロジーだということで、利用する人も増えているのだとか。いいことです。でも布おむつだと早くおむつがはずれると時々言われることが気になります。そういう子もいますが、わたしの経験では「おむつを卒業する時期は、こども次第。おむつが布か紙かなんて、ぜんぜん関係ありません。」それはもう、声を大にして。

おむつ卒業をあせって、無理しても布になんて変ながんばり方はしなくていいです。紙おむつが高いなら布にしてみる、布おむつに疲れたら紙にしてみる。じょうずに使って、親子共に、より快適なこどもぐらしを。(08.9.16)

野良望

福田首相が政権を投げ出してから異様な事態が続いた。自民党の総裁選に五人が立候補し、言いたい放題のことを言い、マスコミは無批判に報道▼二度も投げ出してにおいて国民にお詫びの一言も無い。みんな日本国民の苦しみの元の格差社会をつくった張本人、小泉内閣の閣僚だ▼石原、小池などは「構造改革」をもっとやれと放言。国民が苦しんでいる医療、雇用、物価高についてまったく触れない。▼NHKは公共放送であるにもかかわらず一政党の五人の総裁選候補の演説を垂れ流した。まるで自民党のCMそのもの▼いたたまれずNHKに抗議の電話をした。出てきた責任者は、抗議が沢山来ていることを認め、抗議の主旨は必ず上に伝えると言った▼NHKの最高責任者は財界出身だ。大企業、アメリカ力言いなりの政治を、国民こそ主人公の政治へ。(松)

9月定例市議会

党市議団の頑張りで市民の願い実現へ

際立つ白井市長の反共発言の異常さ

先の6月定例市議会で、土地開発公社をめぐる日本共産党市議団の質問に対し、市長は答弁席に立たず自席でヤジを飛ばす場面が多々ありました。9月議会では、「非核平和都市宣言」を求めた質問に対

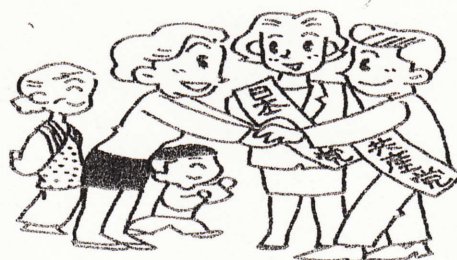


し、「平和問題はイデオロギーが絡んでくる、共産党の言っていることは政治のにおいがする」。秋川3丁目の風呂施設に対し、住民から反対の声があがっていることを取り上げた質問に「住民を扇動してやるのはいかなものか」など、共産党市議団を敵視する発言が相次ぎました。すべての小・中学校耐震化実現の見通しが

日本共産党市議団は、遅れている学校の耐震化を一刻も早くすすめるよう、これまで毎年の子算要求、意見書提出、一般質問で八回もとりあげ要請してきました。9月議会でも市長は、国や東京都の補助金の確保で、平成23年度までにすべての校舎・体育館の耐震工事を完了することを表明しました。

今回、東京都が独自の財政支援を行うことになったことにより市長も決断したものです。耐震化の方向に一定の前進が見られよかつたと思えます。

乳幼児医療費無料化の所得制限の撤廃
子育て支援策の一つとして子ども医療費の無料化が進んでいます。あきる野市では、就学前まで無料ですが所得制限があります。多摩地域で所得制限があるのはあきる野市だけになっていました。日本共産党市議団は、合併以来四回の条例案、東京都への意見書など独自に提出してきました。また、各会派代表宅へ訪問し、働きかけをおこない所得制限撤廃を求めています。本年6月議会でも条例案の提出をしましたが、市長より9月の補正で所得制限撤廃が



表明されたため条例を取り下げました。9月議会でも市より所得制限撤廃の条例が提出され全会一致で可決されました。都区内では中学3年まで無料です。引き続き、中学3年までの医療費無料化の早期実施を求めて頑張ります。



ぶどうを食べて温泉でのんびり

あきる野南部日本共産党後援会

事務局長 平沢源司

秋晴れのさわやかな9月12日。南部後援会では総勢29名で親睦バスの旅に出掛けました。山梨県の三森ぶどう園→ほつたらかしの湯→恵林寺のコースでのんびりと楽しんでまいりました。帰りのバスでは、影山市議のクイズに頭をひねりながら、英気を養い、来る総選挙への結束を固めてまいりました。



秋風感じる

絵手紙/金井真奈美さん・瀬戸岡在住

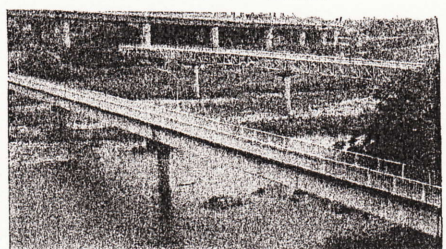
劇場の二番煎じはもう飲めぬ 西山 昇
NHKのつかあ自公の宣伝部 西山 昇
待ってました総選挙で国づくり 松崎坊
自国党人材なひねまた辞任 松崎坊

歴史探訪

第75回

地名考・牛沼②

秋川 (秋留人道橋)



草花 木崎秀治 (続)

牛という動物に直接関係して来た地名と、牛の字が付いた地名でも異なった意味を持つている地名と二つあります。一九七九年(昭五四)の著作「地名の由来」に「アサ(浅)の同根の語意として「アサ(選)・ウス(薄)・ウシ(牛)」を挙げています。従って「ウシ(牛)」は「アサ(浅)」であり、「アサ」の語意をそのまま沼と解釈すると、牛沼は「浅い沼」のある土地となります。現在の牛沼には、秋川を挟んだ兩岸に沼地はありませんが、古代、秋川の岸辺には沼や沢がいくつもあり、牛沼と呼ばれるようになったのかも知れません。「新編武蔵風土記稿」には次のように記述されています。(木崎省略)「牛沼村は多摩郡の中心にあり秋留郷に属す。総て平らな土地である。秋川に面している。時には洪水の心配がある。土の性質は真土で陸田が多く、水田は少ない。東北は油平村に隣接し、西は代継村である。南は秋川を越え戸吹村を境とし、面積はおおよそ四方が五〇〇×六〇〇米である。民家は三六軒、農業と機械の他は何もない。日本橋まで四八キロ、一六八九年(貞亮五)に設楽甚左衛門が検地して、貢税を定めるようになった。」

俳句

カナカナと夕べに聞きぬ肩かき (静子)
短夜や戦争語る老教師 (やす子)
何つげるかかなをふりしほり (かほる)
姉妹流し踊りの列の中 (暎代)

見ら去りぬ尾鰭ゆらりと食魚かな (淑子)
初秋やとど波たらし夕の湖 (つや)
稲妻に川あかちや日の陰り (和恵)
子舟の留守登校の天の大いびき (勝代)
城の濠霧の小舟の囁ける (香澄)